

授業と評価の年間計画

| | | | | |
|------------------|---|--|---|---|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 世界史B | |
| 履修条件 対象生徒 | 選択 普通科（文型） 3年 | | | |
| 学習目標 | 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解し、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付ける。 | | | |
| 学習方法 | <p>【授業】 教科書（山川出版社）と授業プリントを核に授業を展開する。単に暗記するのではなく、歴史の流れや同時代史的な横のつながりの把握や歴史的意義の理解が重要である。</p> <p>【家庭】 教科書の授業範囲にしっかり目を通すこと。また、問題集の問題を解いて理解していない箇所を確認すること。模試や過去問を十分に活用すること。</p> <p>【補習・その他】 補習は授業を進める。グレードアップセミナーでは問題演習を行う。</p> | | | |
| 学習計画 と ねらい | <p>1 1学期</p> <p>(1) 中間検査まで ア アジア諸地域の繁栄 イ 東アジア世界の動向 ウ 清代の中国と隣接地域 エ トルコ・イラン世界の展開 オ ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展</p> <p>(2) 期末検査まで イ 近世ヨーロッパ世界の形成 ウ ヨーロッパ世界の拡大 エ ルネサンス オ 宗教改革 カ ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成 ク 近世ヨーロッパ世界の展開</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握する。 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進んだことを把握するとともに、主権国家体制を整え、工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化と社会の変容が促されたことを理解する。 | |
| | <p>2 2学期</p> <p>(1) 中間検査まで イ 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 ウ 欧米における近代国民国家の発展 エ アジア諸地域の動揺 オ 帝国主義とアジアの民族運動 カ 二つの世界大戦</p> <p>(2) 期末検査まで ウ 地球世界の成立 イ 冷戦と第三世界の独立 エ 現在の世界</p> | | <ul style="list-style-type: none"> 18世紀における欧米における国民国家形成の過程について理解する。19世紀にはその欧米諸国の対外的膨張が始まり、アジア諸地域がそれにどう対応したか整理する。20世紀には、帝国主義諸国同士が世界大戦の形で衝突し現代の世界の大枠が形成されたことを把握する。 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、現代世界は地球規模で一体化し、相互依存を強めたことを理解する。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から、20世紀の歴史の特質を考察し、未来を展望する。 | |
| | <p>3 3学期</p> <p>(1) 学年末まで ア センター試験問題演習</p> | | <ul style="list-style-type: none"> 大学入試センター試験の過去問などの問題演習を行い、問題の傾向に慣れる。 | |
| 評価規準 | <p>関心・意欲・態度 現代の世界が形成されるまでの歴史的過程を意欲的に追究し、国際社会に生きる日本人としての責任を果たそうとする。</p> | <p>思考・判断 現代の世界が抱える諸問題の歴史的背景を、因果関係を踏まえて適切に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。</p> | <p>技能・表現 年表や資料、地図など、歴史的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択し、現代世界が抱える諸問題の歴史的背景を適切に表現する。</p> | <p>知識・理解 現代世界が形成されるまでの経緯や現代世界が抱える諸問題の歴史的背景を理解し、その追究の方法を理解し、身に付けている。</p> |
| 評価方法 | 定期検査や課題検査の成績を重視するが、授業における課題等の提出状況や出欠状況、授業態度も含め、総合的に判断して評価する。 | | | |
| その他 | センター試験では、単に歴史用語を暗記するだけではその対応は不十分であり、歴史の流れや歴史上の意義を理解していなければならない。そのため、図説の写真や地図、教科書の脚注や史料にも注意を払わなければならない。 | | | |